

第一回北海道がん患者交流会を開催

平成 28 年 10 月 14 日（金）に北海道がんセンターにおいて第一回北海道がん患者交流会を開催いたしました。

都道府県別のがん死亡率が 3 年連続第 2 位の北海道では道内各地にたくさんのがん患者や家族がおり、がん患者団体や患者支援団体も数多く活動しています。より多くのがん種、より多くの患者や家族の切なる思いや願いを、議員や行政、医療機関などに発信するためこれらの活動団体が結束しようと、都道府県がん診療連携拠点病院である北海道がんセンターが呼びかけをし、交流会を開催いたしました。

当日は、札幌とその近郊の他、釧路や滝川、函館などからがん患者や家族をはじめとして、14 のがん患者団体・患者支援団体の代表者、北海道庁、道議会議員ら 60 名以上の参加がありました。またメディアも北海道新聞、北海道医療新聞、TVH（日経系）からの取材もありました。

第一部の講演は「北海道の肺がんの現状～治療方法はあるのか」と題して、北海道がんセンターの近藤啓史院長から肺がんの現状や治療法他に、北海道のがん登録のデーターを通して得られる様々な情報についての説明がありました。続いて北海道がんセンターの木川幸一認定がん専門相談員より「北海道のがん患者の就労支援の現状」と題してがん治療と職業生活の両立支援の進め方について説明がありました。

第二部の意見交流会では、活発な意見や提案が挙げられました。「がんの語りべを自治体として養成できる体制を整えてほしい」「地方（札幌以外）の患者は頻回に来札するのは難しいので、それぞれのがん診療連携拠点病院に患者の意見を集め、それを都道府県拠点病院の北海道がんセンターに集約し行政や医療機関等に意見を伝えてはどうか」「ピアサポーターの養成を北海道として取り組んでほしい」「メラノーマや GIST などの希少がんの患者数が少なく地方で患者会を立ち上げるのは難しいが、都道府県単位や希少がんとして立ち上げてもいいのではないかと。その際にはマスメディアの力も借りてアピールしてもらえると効果がある」「本日の話し合いの内容を知ること各地元の患者会の話し合いも広がりを見せていくと思うので、マスメディアの力を借りてなどして広報して欲しい。また話し合われたことを地方、地域に伝える仕組みを作って欲しい」などの声が次々に挙がりました。最後に近藤院長より、「今後も引き続きこの交流会を積み重ねていく中で情報を共有し連携を深めていきながら、北海道内のがん患者や家族の切なる思いや願いを行政や医療機関に

届けていきましょう」と話され、盛会に終了しました。

このがん患者交流会は定期的開催予定で、次回は12月2日（金）13：30～16：00を予定しております。



※参加したがん患者団体・がん患者支援団体

- ①パンキャンジャパン北海道アフィリエイト
- ②北海道肺がん患者と家族の会
- ③グループネクサスジャパン北海道支部
- ④NPO 法人 市民と共に創るホスピスケアの会
- ⑤おしまホスピス患者・遺族会
- ⑥よつばの会（婦人科がん）
- ⑦シャイニーピーチ道東乳がん患者会
- ⑧五葉の会
- ⑨ピンクリボン・ディスカバ
- ⑩BEC 北海道
- ⑪NPO 法人 キャンサーサポート北海道
- ⑫ラクシア
- ⑬アスパラの会
- ⑭NPO 法人 G I S T E R S